

「金杉台中学校に関する保護者説明会」会議録

- 1 開催日時 平成30年11月10日（土）9時00分～11時10分
- 2 開催場所 金杉台中学校 体育館
- 3 参加人数 24人

【司会】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。まず、資料の確認をいたします。3種類ございます。一つ目は、「金杉台中学校に関する保護者説明会資料」、二つ目が「別冊参考資料」、三つ目が「ご意見等記入用紙」です。不足はございませんでしょうか。

続きまして、皆様にお願いがございます。会の進行上、携帯電話、スマートフォン等をお持ちの方は、マナーモードにさせていただくか、電源をお切りいただくようご協力をお願いいたします。また、本日の説明会は、11時までを予定しております。学校をお借りしていますので、限られた時間となりますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、本日の説明会にあたり、金杉台中学校と金杉台小学校の両校長先生をはじめ先生方にご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

それでは、ただ今より「金杉台中学校に関する保護者説明会」を始めます。

ここで、本日出席しております船橋市教育委員会の職員を紹介いたします。

（出席者自己紹介）

【司会】

はじめに、船橋市教育委員会管理部長よりご挨拶申し上げます。

【管理部長】

皆様おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

ご存知かと思いますが、今年の5月1日現在で、金杉台中学校の生徒数は59人、学級数は3学級です。後ほど詳しくご説明しますが、平成26年度から3学級が続いており、平成29年度の入学の現2年生は15人となりました。今後も3学級という状況は続き、生徒数は減少し続けると推計しています。

小・中連携教育など、ほかではできない取り組みができる一方で、中学校が3学級になると、例えば、クラス替えができない、部活動の数が少ない、などいろいろな状況が生じます。

そのため、今年の2月より、金杉台中学校・金杉台小学校それぞれの学校評

議員と PTA の方々、そして校長先生にご参加いただき、子供たちの教育環境の充実のためにどのようなことが考えられるのか、意見交換するために「船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」を開催してまいりました。

意見交換の内容については、「考える会ニュース」を発行して、先日、学校を通じてお配りしています。

本日は、今までの経緯をご説明するとともに、金杉台中学校・金杉台小学校の保護者の皆様のお考えを広くお伺いするため説明会を開催することとしました。

最初に、金杉台中学校の現状や考える会での意見交換内容、そしてそれらを踏まえた、教育委員会の考え方についてご説明し、ご質問をお受けしたいと考えております。現時点でお答えできることについては最大限お話をさせていただきます。

また、時間の許す限り、皆様方から様々なご意見やご心配ごとなどもお聞かせいただく予定です。どうぞ忌憚のないご意見、小さなことでも構いませんから、お聞かせいただきますようよろしくお願いいたします。

【司会】

それでは、次第に従い進めさせていただきます。本日の説明会は、議事録を作成いたしますので、質疑応答等を録音させていただきますことをご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは教育委員会よりご説明申し上げます。

【教育総務課】

これからのご説明は、二つの冊子のうち、基本的に「資料」を用いて行います。あわせて、スクリーンにも該当ページを投影しながら進めてまいります。また、別冊参考資料についても、途中でご覧いただく箇所がございます。

それでは、右下に印字があります、資料の 1 ページをご覧ください。本日の流れをご説明いたします。金杉台中学校についての説明を 25 分程度、その後に質疑応答・意見交換として約 50 分程度時間を設けていきます。

では、2 ページをご覧ください。本日の説明会の主旨です。金杉台中学校の現状と、学校規模・学校配置の適正化の必要性、そのために考えられる対応策として検討してきた、これまでの経過をご説明するとともに、保護者の皆様から広くご意見をいただくため、この説明会を開催しました。

続いて 3 ページです。まず、金杉台中学校の通学区域をご説明します。用語の説明ですが、通学区域というのは、いわゆる「学区」のことです。指定学区とは、通学校を指定する地域、言い換えれば、複数の学校から通学校を選択で

きない地域です。一方、選択地域は指定された通学校以外に選択できる学校がある地域で、地域の実情により、市内の数校に設定されています。

このページの地図では小さいので、恐れ入りますが、ここでお手元の別冊参考資料の 2 ページ、【図 1】をご覧ください。紫色の線で囲まれた白抜きの場所が金杉台中学校の指定学区です。それから、紫色の線にピンク色の場所は、今年度より、金杉台中学校の通学区域であるが御滝中学校も選択できる地域へと変更されました。小学校の通学区域が二和小学校から金杉台小学校へ変更となったことを受けて、これまでは御滝中学校の通学区域で金杉台中学校も選択できた地域から変更されたためです。また、赤い線で囲まれたところは御滝中学校へ通学できる区域です。このうち、左側にある水色の場所は、金杉台中学校を選択することができます。

金杉台中学校の通学区域は、隣接校である御滝中学校の通学区域の中に含まれているという特徴があります。

それでは、再び「資料」に戻り、4 ページをご覧ください。金杉台中学校の学級数と生徒数の推移と今後の推計です。昭和 62 年度が生徒数のピークで、528 人、13 学級でした。生徒数は徐々に減少し、平成 21 年度には、生徒数が 93 人、3 学級と初めて 100 人を切り、全学年 1 学級になりました。このことから、生徒数を増やすため、先ほどご確認いただいた御滝中学校の通学区域の中の水色の地域のように、金杉台中学校を選択できる地域を拡大しました。平成 23、25 年度には 4 学級に増えてましたが、その後再び 3 学級になり、現在に至っています。

今年 5 月 1 日現在の生徒数は 59 人です。今後の推計では、生徒数が徐々に減少し、平成 42 年度には 28 人という結果となっています。この推計には、金杉台中学校の周辺地域の宅地開発の状況等直近の社会増減も加味されています。

続きまして、5 ページです。学校の規模の適正化に関する国の動きについてご説明いたします。平成 27 年 1 月、文部科学省は「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」をまとめ、学校規模の適正化について、市町村に主体的な検討を促しています。

「手引」では、「義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としているため、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になること、そうした教育のためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性などのバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいことから、一定の学校規模を確保することが

重要となる。」というような趣旨の記述があります。

さらに、「学校規模の適正化の検討は、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの」との記述もあります。

学級数の標準は、法令で小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」と規定され、さらに「地域の実情その他により特別の事情があるときはこの限りではない」とされています。「手引」にもこれを踏まえた記述がされています。また、大規模校、過大規模校についても、資料のとおりとしています。

続きまして 6 ページです。「手引」では、学級数が少ないことのメリットとして、例えば、「一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握できる」、「意見や感想を発表できる機会が多くなる」、「様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる」などのような例示をしています。一方で、資料に記載のとおり、「学級数が少ないことにより、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない」、「部活動の種類が限定される」、「体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる」等のような、学校運営上の課題を挙げています。そして、望ましい学級数として、中学校では、「全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編制を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上、学校としては 6 学級以上が必要となり、また全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするなどのためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましいと考えられる」としています。

「手引」の中に、適正な学校規模についての明確な定義はありませんが、「小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい」とされています。また、法令で規定されている学級数の標準は「12 学級以上 18 学級以下」ですが、「手引」では、学級数としては、少なくとも 1 学年 2 学級以上、学校として 6 学級以上が必要としていること、また、31 学級以上が過大規模校とされていること等の記述からみると、断定はできませんが、国は、中学校においては、少なくとも 6 学級以上 30 学級以下の範囲は、適正な学校規模として考えているのではないかと推測されます。

続いて、7 ページです。教育委員会においては、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」を策定しています。市の「基本方針」では、国の「手引」の考え方を参考にしつつ、都市部に位置するという地理的条件を考慮し、標準とする学校規模を 12 学級以上 24 学級以下としており、効果的なクラス替えやより多くの部活動が設置できたり、各教科において複数名の教科担当者が配置できるなど、組織的な教科経営や生徒指導がしやすくなる等が期待される効果としています。

続いて、8 ページです。市の「基本方針」では、標準規模校を 12 学級以上 24 学級以下とした上で、標準規模校の下限 12 学級を下回る場合について、法令や国の「手引」では定義されていないため、国の「手引」の記述を参考に、中学校では、1 学年に少なくとも 1 学級は編制できる「3 学級から 11 学級」を小規模校とし、1 学年 1 学級を編制できなくなる「2 学級以下」を過小規模校として、また、大規模校以上は国の「手引」にならって分類しています。

続いて 9 ページです。市の「基本方針」では、学校規模に応じた適正化に向けた方針を定めています。現在 1 学年 1 学級である、金杉台中学校は、小規模校の方針の一つである、下線の部分、「推計において、単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合」に該当するため、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始めることとなりました。

続いて、10 ページです。検討に際して、昨年の秋頃から、金杉台中学校、金杉台小学校、両校の学校評議員と PTA 役員の方々へ、別々に、金杉台中学校の現状をご説明し、お話を伺ってきました。その過程で、小・中学校別々ではなく、一堂に会して意見交換する方がよいのではないかということになり、先に学校を通じてお配りしました「考える会ニュース」のとおり、今年の 2 月、7 月、8 月に計 3 回、「船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」を開催し、子供たちの教育環境の充実のためにどのようなことが考えられるのか、意見交換をしてきました。

では、その内容をご説明します。11 ページをご覧ください。まず、第 1 回考える会では、現状を説明した後、どのような対応策が考えられるかについて、意見交換をしました。その内容を集約しますと、「小中一貫校などに変える」、「通学区域の見直しにより生徒数を増やす」、「存続」、「統合により一定規模の教育環境を確保する」という四つに分類されました。この対応策について、第 2 回、第 3 回の考える会で意見交換をしてきました。

続いて、12 ページです。まず、小中一貫教育についてです。平成 17 年度から行われていた研究に関して平成 24 年度末に報告書にまとめられていて、この中で、ほかの学校より施設面や職員体制などが特別に優遇され、施設一体型が想定される「小中一貫教育校」については、校庭や体育館・プール、図書室等の特別教室も小中それぞれで必要となるといった課題も多いことから、設置はしないと結論づけられていること、また、金杉台小・中学校のように、通学区域が複雑な地域については、小中一貫校ではなく、現在も実施されているような小・中学校の連携を行っていくとされています。

また、金杉台中学校を金杉台小学校に一体化することが可能なのか施設面から分析しましたが、教育上、小・中学校それぞれで必要となる理科室、音楽室等を共用しなければならないなど、必要な教育環境を確保できないことがわか

ったため、小中一貫教育校とすることは、教育環境のあり方として望ましくないと考えていることを第 2 回考える会で説明しました。この点について、考える会のメンバーからは、資料のような意見がありました。

続いて、13 ページです。通学区域の見直しにより生徒数を増やすという意見について、検討した四つの変更案を説明しました。

通学区域に関しては、学校教育法施行令という法令で、「市町村教育委員会は就学予定者が就学すべき学校を指定する」と規定されています。そのため、教育委員会では、あらかじめ各学校の通学区域を設定し、それに基づき就学すべき学校を指定しています。通学区域は、学校規模や地理的要因、地域コミュニティとの関係などを総合的に勘案して設定していますが、一部の地域については、地域の実情等も考慮して、通学区域以外の学校も選択できるようにしています。これが、通学区域の考え方の前提となっています。

これを踏まえた上での四つの変更案については、地図をご覧くださいのほうがわかりやすいかもしれません。別冊参考資料 10 ページをご覧ください。

まず、変更案①は、冒頭にご説明しました御滝中学校に通学できる区域内の水色の場所である、御滝中学校と金杉台中学校の選択地域の一部を金杉台中学校の指定学区とするものです。線引きは、町会自治会のエリア等は考慮していない仮のものですが、地図上でオレンジ色の場所です。

続きまして、11 ページの変更案②については、ただ今の変更案①に、さらに、黄色のラインで囲まれている二つの場所ですが、金杉台中学校の通学区域に隣接している旭中学校の通学区域の一部を追加したものです。

続きまして、12 ページの変更案③は、御滝中学校に通学できる区域である赤いラインの範囲内の全てを、御滝中学校と金杉台中学校から選択できるとしたものです。この案は、仮に、選択が 1 校に集中した場合、急激な学級増に対応ができず、安定的な教育環境の確保ができないため、実際には非常に多くの課題があります。

最後に、13 ページの変更案④については、金杉台中学校の指定学区を金杉台小学校の指定学区に合わせて拡大し、緑色の部分を金杉台中学校の指定学区とする案です。この場合、拡大後の指定学区に御滝中学校に近い地域が含まれることになるため、該当する方々の理解を得ることが難しいのではないかと考えています。

では、もう一つの資料 13 ページへ再びお戻りください。以上、四つの案のいずれの場合も一時的には金杉台中学校の学級数は増えますが、時期は違えども再び 3 クラスに戻ってしまう結果となりました。

続きまして、14 ページです。ここまでご説明しました、小中一貫教育や通学区域の変更に関する意見交換の中で、資料にあるように、存続を望む意見があ

りました。存続した場合、小規模校の課題が継続することとなります。

続いて、15 ページです。第 3 回考える会では、統合による対応案について意見交換しました。表は、金杉台中学校の周辺校との関係です。旭中学校と高根中学校には、金杉台中学校の通学区域からは通学距離が遠くなること、小・中学校のつながりという点では、金杉台小学校の児童は旭中学校、高根中学校へ通学する区域となっていない等の状況があります。御滝中学校については、金杉台中学校の通学区域との位置関係等から見ますと、両校への通学距離が同程度の地域も、金杉台中学校より遠くなる地域もありますが、金杉台中学校の通学区域は御滝中学校の通学区域内にあること、金杉台小学校の一部の児童は御滝中学校へ入学していることなど、旭中学校と高根中学校に比べると地理的課題は少ないと言えます。

続いて、16 ページには御滝中学校の生徒数の推計を示しております。右側の表のとおりです。生徒数は平成 35 年度まで増加しその後減少に転じる推計となっています。

続いて、御滝中学校の生徒数推計に関連する内容のご説明です。別冊参考資料の 16 ページをご覧ください。先ほど、「教育委員会は、あらかじめ設定した通学区域に基づき就学すべき学校を指定している」ことをご説明しました。その上で、特別な理由があると認められる場合に、就学すべきと指定された学校を変更することができる通学指定校変更制度というものがあります。特別な理由としては七つを定めていますが、このうち、(5)・(6)については、希望校の普通教室数に余裕がない場合には認められないこととしており、毎年度の推計により該当校を見直しています。

先ほどの御滝中学校の推計では、平成 32 年度から御滝中学校への距離や部活動を理由とした通学指定校の変更が認められなくなる可能性があります。部活動を理由に金杉台中学校から御滝中学校へ通学指定校を変更している方が、毎年、数人いらっしゃいますので、この推計数を御滝中学校から除き金杉台中学校に加算した場合、御滝中学校では学級数が減少する年度も出てきますが、金杉台中学校の学級数には影響しない推計結果となっています。

ここで、再びもう一冊の資料の 16 ページにお戻りください。この推計は、ただ今説明しました御滝中学校への通学指定校の変更が認められている状態での推計です。両校の推計を単純に合算した結果は 17 ページのとおりで、生徒数のピークは平成 35 年度です。統合について、考える会のメンバーからは、資料のような意見がありました。

18 ページは、御滝中学校の学級数等の推移です。

続いて 19 ページです。考える会を通じて、小中一貫教育校を設置することや、通学区域の見直しにより生徒数を増やすことも対応策の一つとして、意見交換

してきましたが、課題があると考えています。

金杉台中学校は今後もクラス替えのできない状況が継続することが推計されています。教育委員会としましては、教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えております。

小規模校のメリットがあることは認識しておりますが、国の「手引」にも示されている、子供たちが多様な考え方に触れることができたり互いに切磋琢磨できる教育環境という、一定の規模の学校におけるメリットも大変重要であると考えています。

ただし、現時点では、統合するということ、その具体的な時期や方法等について、正式に決定したわけではありませんので、皆様の意見を参考にしながら今後も検討していきたいと考えています。

最後に 20 ページです。本日は、金杉台中学校及び金杉台小学校の保護者の皆様に対してご説明いたしました。今後、地域の皆様にも対象を拡大し説明会を開催していく予定です。日程等決まりましたら、学校を通じてご案内させていただきます。

教育委員会からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

【司会】

説明は以上となります。これより質疑応答に移ります。ご質問、ご意見をお伺いしてまいります。まず、ご質問を伺い、その後、ご意見の時間と、分けて伺います。その際、職員が座席までマイクをお持ちします。着席したままお話いただいて結構ですので、挙手にてお知らせください。

限られた時間での質疑応答になりますが、多くの方からご質問・意見等伺ってまいりたいと思いますのでご協力お願いいたします。

それでは、まず、ただ今の説明について、ご質問のある方は挙手をお願いします。

【参加者】

教育委員会としては、金杉台中学校を廃校するという方向で進めたいという説明は良くわかりました。今まで考える会のニュースなどを見ても、説明を聞いてもわからなかったので、基本的なところを教えてください。最終決定は誰がするのでしょうか。具体的に決定に至るプロセスを教えてください。市として描いているタイムスケジュールとして、いつまで住民や地域の意見を聞く、いつまでに予算化する、そういったスケジュールをどのように考えているのか教えてください。

【教育総務課長】

誰が決めるのかについては、教育委員会の教育委員会会議にて決定することになります。いつ決めるのかというプロセスについては、先ほど説明したとおり、このあと地域説明会を行っていきます。地域説明会はこれから何回やるか、回数を区切ってはいませんが、なるべく多くの地域の方々に説明をしていきたいと思っていますので、複数回考えています。

タイムスケジュールとしましては、地域の皆様に説明しておおむね了承を得られれば教育委員会会議にかけ、決定しましたら議会のほうへ報告をさせていただきます。

実際の学校の統合については、国の統計によりますと、決定してから2～3年というのが多くの実績として出ています。

【参加者】

今、時期は決まっていないとおっしゃいましたが嘘ですね。嘘というか本当のことをおっしゃっていませんね。私は市議会の議事録を見ました。平成30年3月15日の予算決算委員会文教分科会の議事録に中沢議員が質問されていました。早ければ来年度中に再配置計画、つまり金杉台中学校の統廃合計画です。その統合する計画案の決定を、早ければ来年度中に決定までいきたいということが企画財政部から示されていると明記されていました。企画財政部からは、来年度中に予算化したいということを議員さんに説明しているということが議事録に明記されていました。市として青写真は描かれているのですよね。何も決まっていない、いつかわからないという説明を繰り返すことは、決まっていないことは事実かもしれませんが、十分な情報を与えていない。どうして隠ぺいというか、不十分な情報しか与えてもらえないのでしょうか。その理由を教えてください。

【管理部長】

「公共施設等総合管理計画」というのが作られて、その会議に出ております。その中では、金杉台中学校についても言及はございましたが、そこで昨年度の段階で来年度中つまり今年度中にですが、旧職員寮と再生センターその二つを今年度中に予算化も含めて決めていきたいという話がありました。

小学校・中学校もいくつか例示されていますが、それは企画財政部としても教育委員会の考え抜きでは進めていくべきものではなく、「公共施設等総合管理計画」とは別の動きとして、小学校・中学校の子供の数が少ない、学級数が少ないというところで考えています。企画財政部においても金杉台中学校に対する予算化は、今年度来年度にどうするということは今のところ考えていません。

これは嘘ではなく本当の話です。

【参加者】

生徒数についてお伺いしたい。推計を出していただいているのはおそらく今後の人口統計を踏まえていると思われますが、例えば高根台団地は再開発が行われており、確か高根台第一小は一時廃校となりましたが、逆に生徒数が増えているという状況を聞き及んでいます。その中でおそらく金杉台中学校の存在意義というのは、金杉台団地によってもたらされていると考えていますので、この地域の再開発などを踏まえた現況をできればお伺いする中で推計は正しいのかお伺いします。

【教育総務課長】

金杉台団地の今後の建替えについては予定がないそうです。推計につきましては、近隣の、今結構畑のところが住宅になってきていますけれども推計については加味しています。

【参加者】

金杉台団地に引っ越してきて住んでいます。上の子は金杉台中を卒業し、下の子は今金杉台小で、金杉台中学校に入れる予定で、ここを買い、引っ越してきました。人数は少ない。これは入ったときからそうってますし、12年後はこういう推計が出ているとなっていますが、これはもう金杉台中学校だけではなく全部の子供の数が少なくなります。12年後はどこの学校でも減るでしょう。

上の子が行っていたとき、少人数のメリットをすごく感じました。これですぐなくすというのはやめてほしい。そのためにここに引っ越してきて、ここで子育てをして、ここに行かせようと思っています。単純に統合という話ではなく、少人数はデメリットもありますが、メリットもあります。御滝中のほうの知り合いもメリット・デメリット両方あるといいます。簡単になくすのではなくできれば存続してほしい。今どうしても統合のほうに進んでいるようにみえるが、そこに住んでいるこれからの子育て世代のことを考えてほしい。

【司会】

ただ今のご発言は意見ということでよろしいでしょうか。ご意見として承ります。

【参加者】

先ほどから、中学校を統廃合する、金杉台中学校を廃校するという理由に生

生徒数の問題のみを言っています。その割に「今後を考える会」の話では子供たちの「教育環境の充実」と言われていますが、そこに嘘というか本当のことではないことが入っていると私には思えます。

結局廃校ありきで進んでいると見えます。廃校ありきの根拠に、「船橋市公共施設等総合管理計画」が作られていて、それと「学校規模・学校配置の基本方針」の中に子供たちの教育環境という面だけでなく、その「公共施設等総合管理計画」と整合性を取るということが必要だと明記されています。これって要するに総務省から出されたものですよね。総務省から平成 26 年頃に「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」というものが出ていて、それに基づき船橋市でも計画を立てている。それに従い特に公共施設「ハコモノ」を減らせという指針がある。総務省の方針に市が従い、その実施状況によって、国からもらえる補助金が減る。減るのは困るので、一番生徒数の少ないターゲットとなっている金杉台中をつぶせという流れになっていると見える。結論ありきですね。一番わかりやすい金杉台中学校をなくす。そして国から補助金をもらう。子供たちの教育環境のことは二の次、そういうふうな図式に私には見えます。国からの方針が出ていて、それに従ってその中で学校廃止基準も整合性を取るために作られ、補助金絡みであるという流れの中でできているということとをなぜ住民や保護者に説明しないのか、その理由を教えてください。

【教育総務課長】

国の補助金絡みとおっしゃいましたが、学校を管理運営していく上で、総務省が出している補助金とはこれはちょっと関係がないと思われます。実際のところ総務省から補助金はいただいておりますので、そういったところとは別の観点で、教育委員会として考えてきた、学校の適正な配置、教育の観点から考えています。

【参加者】

総務省からお金をもらっているどうか、私はわかりませんが、船橋市の「公共施設等総合管理計画」というのがあって、その大もとは総務省の指針ですよ。それと整合を取る形で「学校規模・学校配置の基本方針」ができていて。そこで適正規模を市が定義していて、あくまでも定義したものに合わないから統廃合のターゲットにしているということは明確であります。そういったことは言うべきではないでしょうか。

【教育総務課長】

そういった考え方ではございません。学校の規模というのは教室の数ですよ

ね。小規模校のメリットはございますが、そういったものと標準な学校規模というのを考えたときに、デメリットを考えていきますと学校の規模としては単学級が続くようでは学校運営上問題があるという中で、「基本方針」を定めているものです。

【参加者】

単純に考えて建物を二つにしたらと思うのです。連携教育できるのに、一貫教育はできない。一貫教育というところで施設を一本化できないというところがわからない。資料 12 ページにあります。なぜ図書室や理科室を一本化できないと言われていましたが理由がわからない。なぜ一貫校にできないのか理由がわからない。

【管理部長】

建物のことでお話しすると、例えば理科室や音楽室など共用できる部屋も確かにございます。しかし共用ができない部屋というものがあり、例えば木工室、金工室、被服室は中学校専用となります。細かく見ていったときに、小学校の中に中学校の機能を全部入れていくことが難しい。

例えばプール一つとっても、体育館を見ても、おそらく体育館のコートの大きさは小中で違う、プールの水深も小学校低学年と中学校の生徒が使うときに変えたりとかそういったこともいろいろあって、検証はしてみたのですが共用ができない。小学校の中に中学校を入れることはできない。

逆にみると、中学校の方が小さいので、小学校 12 学級を中学校に入れることは難しい。

給食の問題もあります。小学校は一つのメニュー、中学校は二つのメニュー。食べる量、栄養素も違ってくるので一つの調理場で 3 種類の給食を作るのは非常に困難であるなど問題があります。

【参加者】

やっぱりなくすことを前提に考えているのですね。新たに作ればいいのでは。金杉台の団地の中に教育施設、公共施設があるということが大変重要で、避難場所にもなっています。

【管理部長】

金杉台中学校をもし統廃合したときに、この体育館やこの校舎をどうするか、まったく検討していません。仮に学校が統廃合されたとしても、公共施設そのものがなくなるのか、避難所機能をどうするのか、検討はしておりません。ま

だ統合が決まっていないからです。もし統合するということになって、公共施設が必要だ、避難所が必要だという声がありましたら、企画財政部と一緒に丁寧にお伺いして、どこまで地域の方へのご要望にお応えできるか。統合の話とは別に検討が必要だと考えています。

【参加者】

統合の話と廃校となった後の施設利用を考えずに統合を言うのは無責任だという感想を持ちました。

質問ですが、資料には標準とする学校規模で期待される効果が書かれていますが、実際のところ、これらの効果が発揮されたという証拠となるような調査や研究結果はあるのか。研究結果がないのに、期待されるという願望だけで統廃合を押しつけられたら困ります。証拠となるような研究結果はあるのか教えてください。

【学務課長】

それぞれの学校で校長先生の学校経営方針のもと、教育活動が営まれています。金杉台中学校のような3学級の学校もあれば、20学級以上の学校も市内にはあります。それぞれの学校の中での教育活動ですので、それぞれの学校でこういう経営方針を持って、こういう経営をし、こういう効果があったということは、年度当初、年度末の校長面接で確認・把握している。それを27校の中学校で比較は行っていない。それぞれの学校の校長先生の学校経営を尊重し、一任しているので、比較をしての検証結果はございません。

【参加者】

金杉台団地なりこの地域の開発の状況を加味した上で、学校をなくすという話だと思うのですが、金杉台団地の建替え予定はないというが、直近何年を見たものなのか。

公団の高根台団地は昭和36年に建築が始まっていて、こちらの金杉台団地は昭和47年です。その間約10年。向こうは駅が近いので確かにニーズが大きいと思いますが、耐震の問題や、高齢化の問題を鑑みたときに、直近10年本当に建替えの予定がないのか、建替えの予定がないのが直近1年なのかでだいぶ見方が変わってくると思う。イメージとして直近何年建替えがないのが確実なのでしょうか。

【管理部長】

今年1月に確認したところ建替えの予定はないと聞いている。建築部に過去

にいたときに、UR の資料では先々までの建替えの計画を立てていて、その中に金杉台団地の建替え計画はないと聞いていて、それが継続しているものと考えています。金杉台団地が高根台団地と異なるのは、賃貸と分譲の両方があり、賃貸については UR が建替えますが、分譲の建替えは管理組合で建替えしなければならず、ほかの分譲団地のいくつかにおいては建替えの動きもありますが、今のところ金杉台団地ではそういった動きがあるとは聞いていない。どなたかそのあたり、分譲団地にお住まいの方で、わかる方はいらっしゃいますか。(該当なし)

【参加者】

一般的に考えて、建物の耐久年数の話をしたい。人の流れにプラスして建物の耐久年数もあると思います。高根台団地の話をしてしまったが、全国的に見て団地群は昭和 30～40 年代に建てられているので、どこもやはりいろいろな問題をはらんでいる。建替えがはじまっているところもあるが、廃墟のようになっている地域もあり全国的な問題となっていることもある。直近 5 年後はわからない。10 年後にこの状態のままいるかどうかは誰も保障ができないと思うのです。そこをどこまで教育委員会は縦割りな考えではなく、横断的に考えているのか確認したかった。例えばここで建替えが済みました。お子さんが増えました。ここに中学校はありません、御滝中学校になっています。となると、御滝中学校が逆にこの資料にある「超巨大校」になってしまうのではないかな。

【管理部長】

金杉台団地の情報としては、耐震強度は確認されていると聞いている。耐震に関しての建替えはないと聞いています。老朽化については、古い団地は市内にもほかにあり、UR は古い順に、また建替えしやすい順に、着手していくと聞いている。市全体の UR の計画の中には、金杉台団地の建替えは入っていなかったということです。将来的にいずれ建替えなければならないとなり、仮に建替えた時期、市、日本全体で子供の数が減るので、建替え後に子供の数があふれるというのは想定しにくいと考えられます。

【司会】

質問を伺って 30 分経過しましたので、次に、ご意見をお伺いします。ご意見のある方は挙手をお願いします。

【参加者】

先日これに関して意見書をメール送信しました。早速返信いただきました。

ご返信の文面に関して、差出人の名前がなかったので正直残念でしたが、1点気になる内容があったのでこの場をお借りして読ませていただきます。

「金杉台中の今後を考える会でも、通学区域や選択地域の変更のご意見をいただき、複数の変更案を想定してシミュレーションもしてみました。いずれの案も一時的には学級数が増えるものの、その後はまた全学年単学級になるという推計が出ています。」ということです。そのとおりだと思います。ですけども、子供が減るから学校を廃校にするという発想がそもそもおかしいと思います。短絡的だと思います。国が子供を増やしたいと政策でもうたっているのに、その受け入れ先である学校を減らそうとしているのは矛盾しています。近い将来子供が増えるという希望的観測のもとに学校を現状維持させるというのが教育的配慮ではないかと私は思います。国は子供を増やしたいのか。学校は一度減らしてしまって、また増やすというのは絶対に難しいと思います。

大人数の学校に通いたいお子さんもいらっしゃると思うが、小規模校に通いたいお子さんも当然いると思うんです。

よく切磋琢磨という言葉が教育委員会では使いますが、切磋琢磨は別に一人でもできるわけなので言葉は使い方が気になるところです。がつつ周りの子供の存在を意識しながら学校生活をみんなが送りたいわけではないと思います。私も教育現場にいるのでわかるのですが、少人数の良さが絶対にあると思います。高校の教員なので、大学入試など生徒を指導する中で、今後の教育では新しい学力の3要素がうたわれています。「知識と技能」というのが今までの教育だったんですがそれに「思考力、判断力、表現力」、あとは「主体性、多様性、協働性」という三つの学力が重視されて、それに基づき新テストが作られています。これはとてもハードルが高く、子供の数は少なくなり、大変。未来のお子さんは今の大人より負荷が大きく大変です。そういう中で手厚い少人数教育は大事であるのに、矛盾していると思います。

知識基盤社会では、錯そうして複雑な世の中でいろいろなことに対応するアドリブ力が求められているので、教室に生徒を詰め込んで手厚い教育ではできないと思います。実際私は教育現場で働いていてわかります。人数が多いから切磋琢磨できるという、それはいかながなものかと考えます。許容量以上の学習環境では、お子さんの可能性や潜在力を摘むと思います。

先日、お子さんをお持ちの保護者の方と話したとき、1点だけ少人数の学校で気になるのは部活動がうまく回らないことで、デメリットは正直それだけだというご指摘がありました。ほかの保護者の方も部活動をネックに思われている方はいらっしゃると思います。現在の中学校の部活動は、マスコミでも取り上げられていますが、教員はブラックで過労死ラインを越えています。そもそもこの話合いという貴重な機会はないけれど、我々教育の素人と、直接現

場にいらっしゃるプロの方で、真ん中の現場の先生の声が聞こえてこない。子供は小さいから意見は言えないかもしれませんが、現場の教員の方々の声を吸い上げないと、話し合いとして成立しない。匿名でもいいので市内の教員のアンケートとか実際の部活動を含めて取ってほしい。フェアではない。そうなんだろうなというイメージと、過去の経験値で話しているだけなので、まったく話にならない。現場の教員の先生方のお考えを聞いて正しい意見交換会が成立する。どんな形でもいいので、ご配慮いただきたい。

メールの内容で私なりに調べたこと、考えたことがあるので簡単に話させていただきます。

ここで一点目、学校統廃合に関して、想定される肯定と否定の論拠として話を書いたのですが、私自身は当然統廃合に反対です。

よくある肯定の意見の中で、小規模校では切磋琢磨・相互啓発がされにくいというご意見はあると思いますが、子供の自然な競争意識を芽生えさせるのに、大規模な集団はいらないです。そもそも切磋琢磨・相互啓発は大人の理屈です。子供の人数が多ければ積極的・能動的になることは経験上考えにくく、かえってそれが負担やストレスとなり、疎外感・無気力感を生み出す可能性が十分考えられます。学力の切磋琢磨ということを計りたいのであれば、中途半端な規模の学校の定期考査の成績をみるのではなく、教材会社主催の模試などを使うべきで、これはいかがなものかと思います。

小規模校では、人間関係が固定化されやすいといいますが、逆にデメリットではないと思う。むしろ、安定した継続的な人間関係が子供たちにとっては必要なことです。学校とか家庭とか地域社会で、親密で安定した異年齢で、いろんなお年寄りを含めての人間関係が大事だと思います。そうした中で、安心して子供たちは成長できると思います。核家族化とか両親共稼ぎの家庭もありますが、中学校でも同じでして、地域ぐるみで子供たちを育てなければいけないと思うんです。わざわざ大規模校にしてしまってストレス過重な中で教育させるというのはいかがなものかと考えます。

それから、小規模校では社会性が育ちにくいとか、いじめがあったときにクラス替えで対応できないなどありますが、社会性というのは、みんなで何かを成し遂げようとか、自分の属する集団の中で自分の役割をしっかりと果たして主体性を発揮できることです。そうした力は、やっぱり段階を踏んで、いきなり大規模な学校の中でやるものではないと思います。少しずつ集団を増やしていつてゆっくり育ていけばいいと考えます。いじめの問題でも根本は同じです。いじめは、人間関係が不安定だからこそ起きる。クラス替えで対応するというのは、対処療法で根治はしていないんです。いじめ問題でクラス替えをしなければならないのは、いじめを初期段階ではなく、深刻になってから初め

て気が付くのです。クラスや学校の規模が大きい場合にむしろいじめは起こる。小規模のほうがむしろいじめは起こりにくくて気付きやすいんです。そういうことを改めて認識していただきたいと思います。

社会性ということで付け加えますが、公教育にはキャリア教育があります。例えば人間関係形成能力とか、情報活用能力とか、将来設計能力とか、意思決定力とか。そういう能力をキャリア教育として将来を見据えてちゃんとカリキュラムの中で組み込まれています。小規模というのは理由にならなくて、ちゃんと学んでいるはずなのです。もし人数が少ないから友達が少ないというのなら、ほかの学校と交流すればいいわけで、そういう機会を設定すればいいだけの話だと思います。

あとは部活動の話で、どうすればいいかですが、最近、地域のスポーツクラブの意義が見直されています。スポーツクラブだけでなく地域に様々な文化活動を行っている団体があり、国とか自治体がしっかり予算を出して指導者を育成し環境も整える、そういうふうにしたほうが建設的だと思います。教員の部活動についてはボランティアであり、すごくブラックです。中途半端な部活動指導をされるよりはスポーツクラブや地域の文化事業に参加するという、新しいやり方をいくらでも考えられるはずですので、ご考慮いただきたいと思います。

適正な学校規模の話ですが、国の基準では12～18学級というのを教育委員会もよく使っていますが、これは標準であり適正ではないのです。適正という表現を使うことに違和感があります。教育的な観点から適正な学校規模を国は定めていません。あくまでもちょうどいいぐらい、あくまでも標準なのです。根拠も学校教育法施行規則でなんとなく決められているのが実際なので、それに関してどうなのかなと。適正というのは標準。それを強調しておきます。

OECD（経済協力開発機構）という組織の2013年版、「図表でみる教育」という出展では、1学級当たりの児童生徒数は、初等教育の小学校で日本の27.9人に対しOECD平均は21.2人です。前期の中等教育の中学校では32.7人が日本ですがOECD平均は23.3人。1クラスの人数も日本はキャパをはるかに超え世界水準を超えています。クラス、学校の標準規模は1校当たり12～18学級で、一つの学校の児童生徒数は480～720人という計算になるはずで、日本は世界に例を見ないくらいの大規模校なのです。考えられないことなのです。そういうところもわかっていらっしゃると思いますが、改めてご配慮いただきたいと思います。

これ何なのかなということで、私自身の見解は財務省なのかなと思います。財務省では学校規模の最適化に関する調査を行っているんですが、小中合計で約170億円の効率化ができたという成果を強調して、今後、地方自治体や国を

挙げて学校統廃合を促進しようとうたっています。

学校規模を小さくする世界の流れに逆行し、学校経費の効率化のため学校規模を維持、もしくは大きくしようというのが、今の日本で統廃合の動きだと私は考えます。

そもそも諸外国で学校規模が小さいのは、教育効果が非常に高いからです。きちんとした学者さんがうたっていますことも付け加えておきます。

学校統廃合の本当のねらいはやはりお金ですね。小規模校は、経費が割高になって非効率だから、統廃合して学校経費を合理化することが一番ではないかなと思います。データとして財務省の予算執行調査というのがありますが、これは財務省主計局や全国の財務局の担当者が、予算が効率的かつ効果的に執行されているかといった観点から行う調査で、平成 14 年度から毎年実施されているのですけれど、学校規模の最適化に関する調査は、学校を統合して平成 17 年 4 月に開校した全国の公立小中学校全てを対象に、学校統合の現状及び効果等の把握を行ったもので、学校統合によって「人件費を中心として、小中合計で約 170 億円の効率化、児童生徒一人当たりでは約 3 割の効率化」が図られたと強調。そして「今回の調査で、学校統合については、①財政効率化のみならず、②学校規模の適正化・教職員配置等の教育政策上の効果、③保護者・子供・設置者等の関係当事者の評価も肯定的であったことが、データで明らかになった」ということなのですから、これは教育効果とはまったく違うわけなんです。

また、「関係者の評価も肯定的」としていますが、保護者や児童・生徒が、「統合してよかった点」として挙げているのは、圧倒的に多いのが「友達がたくさんできる」で表面的なことなので至極当たり前のことなんです。

問題は「統合して困った点」です。「通学距離が遠くなった」、「友達の家が遠い」、あと一番大事なことで「少人数の方が指導は細かい」といったこともうたわれているのです。子供たちの学習や生活面で、具体的・深刻な問題が生じていると。そういった点は無視して、学校統合は「おおむね歓迎されている」と財務省の調査では結論付けています。そういうところもしっかりと、話がかなり大きくなってしまいましたが、ご配慮いただければと思います。

自民党の話になりますが、選挙公約で OECD 諸国並みの公財政教育支出を目指しますと掲げていますが、実際は全然教育費足りてないですね。世界基準ではないので。政権公約なので、この公約を反故にするのかなと私は思います。

【参加者】

いじめの話が出ましたが私も同意見です。いじめがあったらクラス替えをして解決させる、それは解決策ではありません。現に学校を変えたのにいじめが続いて自殺をしてしまったお子さんがつい最近いたはずです。つまりクラスを

変えていじめが解決したというのはすごく規模の小さい話で、部活をまたいだいじめであれば部活を辞めれば、もしくは変えればいいのか。いじめられているお子さんを守るためにクラスを変えていじめが解決するというのは短絡的な話で、お子さんの命を軽んじているとしか思えません。子供がいじめなどでうまくいかないかと思ったご家族がどちらの中学校を選ぶのか。多分ほとんどの方が、小規模校の学校の方が細やかにみてもらえるし、子供同士の人間関係がうまくいくから小さい学校に入れたいと感じるのではないかと思います。つまりは大きい学校よりも小さい学校のほうがいじめは少ないと、親は体感的に感じているのではないのでしょうか。いじめがあるから大きい学校じゃないとだめだというのはむしろ逆であるという意見です。

【参加者】

金杉台中に子供を通わせています。今の説明で教育委員会のご意見はわかりました。今後、地域を含めて説明会を行っていくのであれば、この学校に通っている保護者や教員の方々の意見を踏まえて、両方を考えてほしいと思います。

【参加者】

親としては、誰のための適正化なのか。子供のためということをして絶対にぶれてほしくない。いじめが起きにくい環境であること、安心できる環境であること。それから学習ですね。学校の本分はきちんとした学力を身に付けることで、やっぱり大事なことです。知識偏重ではなく、きちんと意見を安心して言えるということ、それが大事な学習環境ではないかと思います。私も小規模校はメリットのほうが大きいと思います。

基本的には統廃合は白紙であると考えてよろしいのでしょうか。ここで意見が出されましたが、それにも関わらずでもやっぱり統廃合と決まっているわけではないとしっかりと信じてよろしいのでしょうか。

これから話し合いが続いていくのだということであれば、地域ぐるみで考えることも非常に大事だと思うので、金杉台団地がどうなっていくのかも絡んでいくと思うので、そういうことまで含めて、白紙として地域ぐるみでたくさんの意見を紡ぎながら進めていただきたいと思っています。

【管理部長】

市として、教育委員会として決まっていけないということは事実ですが、白紙ではなくて、「下書き」をしているという段階です。教育委員会会議でも取り上げられていて、その中でも統合を考える時期なのではないかという意見もいた

だいていますので、まったくの白紙ではないとご理解いただきたい。

【参加者】

白紙ではない、下書き状態であるという話でしたが、統合に向けてこの地域の方にも知ってもらいたいし、地域の意見も反映させてほしい。本当だったら先生の声が聞こえないので、聞いたとしても先生の立場上本音は言えないと思うんです。ここだけでなく説明会をしてほしい。受け入れる御滝中は校舎が今でもちょっと大変という声も耳にする。御滝中の現状も保護者の間では耳にしているので、小規模の教育という大切さをもっとうたって、こちらの学区に安心して通わせようと、親の心を動かすような、そういうほうにも目を向けてもらえたらいいなと思います。

私たちの下の世代の、人とのコミュニケーションがあまり好きではないという「ゆとり世代」の親もいるので、そういう親たちに向けての発信をしてほしい。ここに来ている親とその下の世代の親御さんとの考え方が違っている。言ったらまずいことは言わない、思っていると言わないし、先生も言わない。計画がどんどん進む。決まってから反対意見を出しても、言わなかったですよねとなります。もっと情報を広げてもらいたい。メールや投書箱などの案内をして、誰でも意見を言えるように環境を整え、話し合うべきだなと思います。誰でも意見を言って、みんなで子供を育てていける環境を考えてもらいながら、この話の下書きを作っていってほしい。

御滝中のほうは特別支援学級がありますが、統合したらでは...と考える人もいます。最近、発達に関して発見は早いが対応できる人がいない。そういう子供たちを育てていかなければならないので、そういう機関の方にもこの話合いに参加してもらったらいいかと思います。担任の先生が一人で 30 数人を抱えるというのは通常も無理もあって、辞めていく時代です。個性ともいわれるグレーゾーンのお子さんたちがいて、人口の減少云々なり、先生の確保なり、もう少し広い範囲の方を混ぜて話合いを進めた方がいいと思います。

【参加者】

昨日、録音させてくださいと教育総務課の担当と話し、今日の説明会に関してはテープ起こしをしてくれるということでよろしいですかね。

金杉台中学校の今後を考える会があるといいますが、教育委員会で招集したのでしょうか。インターネット上で調べましたが公開されていません。例えば人を選ぶというときに、恣意的に選ぶということもできますし、少なくとも 3 回の出席者を見ると、自治会の方が入っているとあるが、その方々は果たして当事者なのか。当事者でない方が大部分を占めているのかなと疑問に思いまし

た。第 4 回も開かれるということですが、一般公募していないですし、校長先生はいずれ転任されてしまいますし、自治会の方も自分に子供がいなければ答えが適当になってしまうと思います。そういった意味で、当事者じゃない人たちでこれまで話が進んできていると思います。

ここではまったくの白紙ではないという話でしたが、考える会を見ると何も決まっていませんと繰り返し書いてあり、あまりに繰り返しされるので本当にそうなのかと思う。ところが 3 月 15 日の議会の予算決算委員会に取り上げられていて、そこで前のめりになっているから後で取り返しのつかないことにならないようにと要望されている。議員さんは予算の付け方とかから今後どう進んでいくか承知しているはずです。予算に関係している部署が関わっているので基本的には統合が進む方向で動いているのだらうと私は理解している。聞くと、今日初めて白紙ではありません、何も決まっていないと言われるが、一方で 3 月の議会では前のめりと指摘されているので、そういう食い違いがあると、今後信頼していいのかという疑問がわいてきます。

もし今日、何も異論がないとなった場合に、そうなる最短で進むとしたスケジュールは、いつ誰が何を決め誰が責任をもっているのかまったく示されていない。反対に、もし統合しないと決まるとしたらどういうスケジュールなのか、どういう理由があり得るのか、まったく示されていない。いつの間にか決まるのは困るという意見もありましたが、それはスケジュールが全く示されていないからです。

昨日係の人に聞いたのでは、教育委員会の会議で議決して、市議会で議決して、と言われていたが、別の話では市長が決めるとも聞いた。インターネットで調べてもまったく出てきませんのでその辺のまずスケジュールを示していただくことが必要だと思います。

「学校規模・学校配置に関する基本方針」が示されていますが、その中で、標準規模校というのがあり、金杉台中学校は小規模校にあたるので統合の対象となるという論理ですが、標準規模が適正規模にいつの間にかすり替わっている感じがします。表の中で標準規模ではこういうことが期待されます、と列挙されていますがあくまで期待されているだけです。では標準規模の御滝中では実現しているのか。実際にクラス替えでこういう効果があります、クラブ活動でこういう効果がありますなど、利点について可能性があっても実際に提供されているのは何も示されていません。果たして標準規模は適正規模なのか、小さい規模のほうが丁寧に見てもらえることなどありますし、適正だらうと私は思っています。標準規模が本当に適正規模なのかという議論をしていたきたいと思います。

関係者から聞いた話ですが、御滝中では、各学年 20 人程度の不登校がいると

聞いています。最初学校全体で 20 人は多いと思ったが、各学年 20 人ということとでびっくりしました。本当の数字なんでしょうか。教育委員会では不登校の人数は把握しているのですか。これは返答いただけないということですか。

【管理部長】

いくつか質問をいただいておりますが、ご質問されたいのは不登校の数ということでしょうか。

【学務課長】

不登校に関しては、教育委員会の指導課が、各学校から毎月数字が挙げられており教育委員会としては把握しています。その 20 人という数字が正しいかについては、この場ではお答えできませんが、実際に不登校ということで、人間関係で悩んでいるお子さんもいれば、家庭の環境で悩んでいるお子さんもいれば、あるいは病気の場合は...そもそも不登校に入る、入らないはそのお子さんの状況にもよるところです。

新聞等の報道では、「不登校のお子さんが増加している傾向がある」と言われていますが、一つ言えることは、学級数が多いから不登校の生徒が多い、学級数が少ないから不登校の人数が少ないということは、率でいうと一概には言えないというのが船橋の現状です。

【参加者】

一般論としてはそうだと思います。金杉台中学校と御滝中学校とで、最初は私も御滝中学校でもいいじゃないと思っていましたが、関係者から事情を聞くにつれて、これはどうかと思う。私は学力よりも命のことが大事。命が一番で二番目は学校に行くこと。不登校されている子供たちの理由は自分の命を守るために行っていないということだと思う。金杉台中は私が知る限り不登校の数が少ないと聞く。金杉台中に通っている人は、部活動を理由にすれば御滝中には行けたはずですが、行っていない、金杉台中を選んでいる。その中には御滝中の内情を知っている人もいる。

統合した場合、金杉台中学校から御滝中学校に通学先が変わるという単純なものではない。約 60 人が動くのではなく、御滝中に行きたくないから金杉台中学校に行っているという子供が含まれている。私の知る限り金杉台中学校 1 校分の不登校の生徒さんがいらっしゃるのが、下手したら 2 校分に増えてしまうかもしれません。単純な数字の移動では判断できないと思います。

標準規模校の利点としてクラブ活動が挙げられていますが、クラブ活動が問題で登校できなくなった生徒さんがいると聞いています。ネガティブな面はイ

インターネットにも載っていません。いじめ対策は 1 枚載っているが、御滝中学校のホームページには不登校について載っていません。御滝中を選んで行っている人が多いですが、この人たちはネガティブな情報を承知して御滝中学校に選んでいるわけではありませんよね。選ばれている数をもってして魅力を計ることはできないと思います。

昨日私が聞いたところでは、たくさん意見を出していただくために説明会を開きます。今後繰り返し説明会を開き、丁寧に説明していくと教育総務課の担当に話を伺いました。途中、上司に確認すると言い、1 時間後に連絡がとれて、言っている内容がコロッと変わって途方に暮れたのです。今後繰り返し行うということをなんとか信じたいと思います。

今回のことで苦情を言ったんですが、連絡が回ってきたのが 2 週間前です。今日出席したくても出席できなかった方もたくさんいらっしゃったと思います。そういった方に情報を回すために録音しテープ起こしをしたかったが頑なにご遠慮くださいと言われ途方に暮れました。ぜひとも早くインターネット上に上げてほしいと思っています。

【司会】様々のご意見をいただきましたが、ほかに何かございますか、よろしいですか。では最後のご意見をお願いします。

【参加者】

現在金杉台中学校に通っている生徒さんの声を聞いてください。意見を聞く会といいながら、当事者は保護者もそうですが、一番の当事者は生徒たちだと思います。なぜ金杉台中学校を選んだのか、どうしてこっちがいいと思うのか、今いいと思っていることは何なのか。そういう情報が一番大事だと思います。うちの子もそうですが、金杉台中学校に行きたいと希望している児童がいます。その子たちも、なぜそこがいいのか。多分、一緒に運動会をやっていて面倒をみてもらっているのととてもいいということだと思いますが、小さい子供たちなりに意見があります。そういう子供たちの意見なしに、大人たちが財政上の事情とかでワーワー言っている、当事者は無視された、蚊帳の外となってしまう。必ず当事者として子供たちの意見を聞いてほしいなと思います。

子供たちがこう言っているという情報を持った上で地域に説明してほしい。地域の自治会などを通じて地域の皆さんに丁寧に説明しますと言いますが、教育委員会が金杉台中学校を統合します、廃校しますという立場でいくら説明してもダメです。子供たちはこう思っている、という両方の意見がなければちゃんと説明したことにはなりません。地域に説明するというならば、子供たちはこう言っている、保護者たちはこう言っているという両論併記どころか多角的

な説明でなくてはならないと思います。ぜひそれを約束していただきたいと思います。

【管理部長】

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。皆様の声をなるべく早くテープ起こししてホームページに載せるなり、学校に会議録を置かせていただくなりしたいと思います。

最後に、最初の方でも触れましたが、教育委員会は決して財政のためにこれをやろうと思っているわけではございません。

子供たちの教育環境が第一です。企画財政部に対しては、教育委員会のことをお金のことで語っていただきたくないということを言っております。

そこは信じていただきたいと思います。私たちは子供たちの方向を見て、仕事を進めている、そういう覚悟をして仕事をしています。

【司会】

予定の時間が過ぎてしまいました。もしご意見、ご質問がまだある方は、お手数ではございますが、お手元の「意見等記入用紙」にご記入していただき、お帰りの際、出口付近の回収箱にお入れください。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、「金杉台中学校に関する保護者説明会」を終了いたします。

長時間にわたり、誠にありがとうございました。お忘れ物のないよう、気を付けてお帰りください。